

昼生小だより

令和5年9月22日 No. 13

第1回みえスタディ・チェックの結果より

前回お知らせしました6年生対象の「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果に引き続き、4年生と5年生を対象に実施された「令和5年度 第1回 みえスタディ・チェック」の結果をお知らせします。「みえスタディ・チェック」は、三重県が独自に行っている「学習指導要領を踏まえ、知識・技能を活用し、自ら考え判断し、表現する力の定着状況を確認するためのテスト」です。本校の結果とその分析は、以下の通りです。



教科に関する調査の結果より

教科の平均正答率(%)

		国語	算数	理科
5年	本校	50.0	48.4	44.6
	三重県	51.9	57.4	51.5
4年	本校	68.9	63.3	
	三重県	60.2	58.8	

5年生は国語・算数・理科の3教科で、4年生は国語・算数の2教科で学力テストが行われました。本校の教科の平均正答率は、左の表の通りでした。

4年生では、国語・算数どちらの教科においても県の平均を上回りましたが、5年生では残念ながら全ての教科で県の平均を下回りました。「みえスタディ・チェック」では前年度までの学習範囲から出題されますが、5年生ではそれまでの学習内容が定着できていないと言わざるをえません。

各教科の領域別の平均正答率(%)

国語		知識技能	話す聞く	書く	読む
5年	本校	55.6	31.3	37.5	18.8
	三重県	55.4	44.5	39.1	40.3
4年	本校	74.1	61.1	33.3	61.1
	三重県	66.6	47.2	23.4	53.9

各教科の結果を領域別に見てみましょう。

国語では、4年生は全ての領域で県平均を上回りました。しかし、「知識技能」領域の中の「寒い」という漢字を書く設問や、文章中の「そこ」が何を指しているかを選択肢から記号で答えるといった基本的な内容の設問が県平均を下回って

おり、漢字の書き取りや文章の読み取りの基礎基本の定着を粘り強く図っていく必要があります。また、「書く」領域は県平均を上回っているものの、他領域と比べて正答率が低くなっています。問題文の指示にある《条件》を満たすように書く設問で、【話し合いの一部】の文章の中から折り紙の良いところを全て取り上げるという条件を満たして書けず、不正解になっている児童が多く見られました。「話し合いの内容を正確にとらえてまとめる」経験を重ねる必要があります。

5年生は、トータルでは県平均を下回っていますが、「知識技能」と「書く」領域では県平均とそれほど差はありません。「知識技能」領域の設問のほとんどでは県平均を上回っていましたが、漢字

の送り仮名や文の中の修飾・被修飾の関係をとらえるといった基本的な内容で、県平均の約半分の正答率でした。これまでに学習した内容の復習をしたり、練習問題をといて出来なかったところを再度学習し直したりといった継続的な取組が必要です。また、「話す聞く」領域と「読む」領域のそれぞれにおいて問題文の指示にある条件を満たすように記述する設問で、条件の一部しか満たしておらず全児童が不正解になっている設問がありました。まずは、「問題文の指示に従って条件を落とさずに書く」練習が必要です。

算 数		数と計算	図 形	データと活用	測 定
5年	本 校	50.0	50.0	37.5	56.3
	三重県	63.0	52.0	51.6	57.2
4年	本 校	59.3	55.6	72.2	77.8
	三重県	63.8	41.3	50.2	63.1

算数では、4年生は「数と計算」領域を除いて県平均を上回る結果でした。しかし、「数と計算」領域の中でも「 105×4 の計算をする」設問や「 1m を2等分した1つ分の長さを分数で表す」「 2m を6

等分した2つ分の長さを分数で表す」といった、計算力や分数の意味の理解を問う基本的な問題で県平均よりも有意に低い正答率であったことは、基礎基本の定着という面でまだまだ課題が残ると言えます。

5年生は、全ての領域で県平均を下回りました。特に、「数と計算」領域では7問全てで県平均を下回っています。それぞれの問題の概要は、「 $806 - 9$ の計算をする」「 316×24 の計算をする」「 85764 を四捨五入して、千の位までの概数で表したものを選択する」「30人が1つの長椅子に4人ずつ座るときに必要な長椅子の数を求める式と答えを選択する」「 $1.5 \div 3$ の式で求められる問題を全て選択する」「色をぬった部分の長さが $3/4\text{m}$ のテープを選択する」「20は8の何倍かを求める」というものでした。どれも、基本的な計算や考え方の理解を問う問題で、多くの児童が学校での学習時には解けていたはずの問題です。

まずは4・5年生ともに、正確に計算することや定義・用語の理解について再度復習したり練習したりする必要を感じます。基礎基本がしっかりしていなければ、応用や活用はできません。そのためには、「学校で学習して終わり」ではなく、ときどき家庭学習の時間に練習問題をしたり、できなかったところ・忘れたところをもう一度復習し直したりといったことの繰り返しが大切です。児童用学習端末でe-ライブラリなどを活用することも効果的だと思います。このことは、算数以外の教科でも同じことが言えますね。

理 科		粒 子	エネルギー	生 命	地 球
5年	本 校	47.5	28.1	66.7	31.3
	三重県	57.3	41.2	58.8	46.0

理科は5年生のみの実施でした。

植物や昆虫に関する問題が出題された「生命」の領域では県平均正答率を上回りましたが、他の領域

では県平均を下回る結果でした。理科の基礎的な知識・技能や科学的な見方・考え方がまだまだ身についていません。興味関心の低い分野・領域であっても、学習した内容を忘れない努力や、学習した内容を使って正解を導き出す反復練習が必要です。今回のテストで本校児童の正答率が最も低かった問題は、「エネルギー」領域での「かん電池のつなぎ方とモーターの回り方」について問う設問でした。2個のかん電池をつないだ図の中から「かん電池1個のときよりもモーターが早く回るつなぎ方をすべて選ぶ」問題で、2つ選ばなくてはいけないにも関わらず、一方しか選んでおらず不正解になっている人がほとんどでした。問題をよく読んで、条件に従って回答する練習も必要です。学力の定着を確認し復習する機会が、学校でも家庭でも、もっともっと必要だと感じます。

学習や生活等に関する質問の結果より

「みえスタディ・チェック」でも、子どもたちの生活や学習の様子などをアンケート形式で問う調査が行われました。以下に4・5年生全体の結果を示し、特徴をまとめてみました。

※ 数値は、各質問に「当てはまる・している」「どちらかといえば、当てはまる・している」と回答した割合の合計(%)です。

【基本的生活習慣等に関すること】

質 問 項 目	本 校	三重県
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	70.5	78.8
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	76.5	87.9
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(スマホ等を使ったゲームも含む)をしますか *3時間以上の回答	29.4	29.7
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯やスマホでSNSや動画視聴等をしますか(学習・ゲームを除く) *3時間以上の回答	11.8	19.2

毎日、同じくらいの時刻に寝ている・起きている児童の割合が、昨年度に比べて減少し、県平均よりも低くなっています。生活リズムを整える必要があります。特に、5年生では平日1日当たりのテレビゲームの時間が4時間以上と回答した児童が半数いました。学校で5月に行った生活習慣の振り返りアンケートの結果でも、5年生は昨年度に比べて平均睡眠時間が約1時間減りテレビ・ゲームに費やす時間が約2時間増えていました。その分、家庭学習の時間が減っているであろうことは容易に想像できます。まずは、基本的生活習慣と学習習慣の見直しが求められます。



【自己有用感、達成感、挑戦心、地域や社会への関心等に関すること】

質問項目	本校	三重県
自分には、よいところがあると思いますか	76.5	80.4
将来の夢や目標を持っていますか	100	87.3
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	88.2	81.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	100	84.4
今住んでいる地域の行事に参加していますか	76.5	65.9
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	58.8	66.1

将来の夢や目標を持っている児童の割合が100%、失敗を恐れずに挑戦する児童の割合も約90%と、昨年度に引き続き県平均を上回っています。夢や目標に向かって、前向きに頑張ろうという気持ちがうかがえます。また、学校に行くことを楽しいと感じている児童が100%であることも嬉しく思います。

また、6年生と同様に、地域行事へ参加している児童の割合は県平均を上回っています。日頃からの保護者・地域の皆様のご協力のおかげと感謝いたします。しかし、6年生と比べると、地域や社会をよくするために自分のできることを考える児童の割合が約30%少なく、県平均と比べても下回っています。地域の一員として、自分たちにできることは何かを考えることも大切なことだと思います。地域でも、昼生の未来について考える取組が始まっていますので、児童の皆さんの思いや考えを発信できると良いですね。



【学習習慣、学習環境等に関すること】

質問項目	本校	三重県
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	76.5	70.8
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	52.9	45.3
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	52.9	44.5
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか。 *30分以上の回答	52.9	36.9

家で計画的に予習・復習などの自主学習をすすめている児童の割合は、県平均を上回っていますが、昨年度に比べると20%近く減少しています。学習時間や読書時間についても同様の傾向が見られます。また、県平均を上回っているといっても、三重県の平均そのものが昨年度の6年生の全国平均に比べると低く、昨年度の三重県平均と比べても減少しています。つまり県平均を上回っているからといって安心できる状況ではありません。「家庭学習の習慣づけ」を図ること、「家庭学習の質(学習内容)と量(学習時間)の充実」を図ること、「読解力を育むための読書習慣の継続」を図ることが求められます。1日の授業以外での学習時間が、平日も休日も「30分未満または全くしない」という児童が約35%もいます。もっと学習時間を増やすように努力しましょう。自分の苦手を克服したり、興味のあることを追求したり、これまでの学習を整理したりする時間をつくりましょう。やらなくては、できるようにはなりません。

家庭学習の習慣は、小学生のうちに身に付けることが大切だと言われています。低学年では「机に向かう習慣をつける」ことを目標にしましょう。1日15分程度で良いので、机に向かって今日学校で習ったことを見返したり、自分の好きなことを調べてみたりするなどできるといいですね。高学年では「復習に時間をかける」ことが大切です。1日30分程度から良いので、まずは授業でわからなかったところ・できなかったところを確認し復習していくことです。これまでに習ったことを確認し、「わかる」という自信をコツコツ積み重ねることが大事です。そのことが、中学校に向けての準備にもつながります。まずは、計画を立てて時間を決めて取り組むこと。無理をしてだらだらと長くやることも逆効果です。間にリフレッシュの時間もはさみながら、短時間で集中して学習すると効果的です。保護者の皆さまには、低学年のお子様には「こんなことをやったら？」というアドバイスいただくことを、高学年のお子様には見守りと「頑張ってるね」の声かけなどを中心にバックアップいただくことを、ぜひよろしくお願いいたします。

私たちは、「覚えた!」と思っていても時間がたつと忘れていきますし、「わかった!」と思っていても実は理解が十分ではなかったりします。忘れては覚えなおして知識を定着させ、様々な問題を解いてみて理解を確かめ、わかっていないところを学習しなおすことを繰り返すことで、私たちは本当の意味で知識や技能を身に付け理解を深めていきます。そこに近道はありません。毎日の努力は、必ずいつか児童の皆さんの力として実を結び、皆さんの役に立ちます。自分を信じて、努力を積み重ねていきましょう!



昼生小学校では、今回の結果から見えてきた課題をもとに、今後の授業改善に努めていきます。